



DAAD

没後150年記念 『シーボルトの知的遺産と 日独協力の新しい道』

シーボルトはドイツ生まれの医師で多才な学者でしたが、1823年、オランダ領東インド政庁から「対日貿易振興のための調査と顧客拡大」を目的に派遣されました。長崎滞在、江戸参府、鳴滝塾開設、日本紹介、これに付随する「シーボルト事件」はよく知られています。幕末の2度目の来日時(1859年)には、幕府の顧問にもなり、英国公使館襲撃事件解決や金貨流出回避等のアドバイザーなどもつとめます。3度目の訪日を目指し、収集品の展覧準備中、ミュンヘンで病没(70歳)しました。

シンポジウム初日は、シーボルトを取り巻く様々な「トピックス」を、二日目は、「シーボルト事件」の新資料と周辺事情を整理し、新たな知見を披露します。

最終日は、「日独協力」をテーマに、東北震災後の福祉施設再建のエコ・エネルギー・システムを例に検証するとともに、未来へ向けた各種の提案を集め討議し、シーボルトの知的遺産を現代に生かすユニークなシンポジウムを目指します。

《日独シーボルト・シンポジウム2016》プログラム

第1日 10月10日(月・休日)

第1部 13:00-16:40

『シーボルトとその時代』

・挨拶

カーリン・山口

OAGドイツ東洋文化研究協会会長

・日独学術交流の変遷

ウルズラ・トイカ

DAADドイツ学術交流会 東京事務所長

・在ヨーロッパ・シーボルト資料研究最前線

日高 薫 国立歴史民俗博物館

プロジェクト・リーダー

・シーボルトと北斎

島田賢太郎 一般社団法人日本美術

アカデミー客員研究員

・シーボルトと出会った大名たち

宮崎克則 西南学院大学教授

* ラウンド・テーブル・ディスカッション *

『シーボルト研究の課題』

パネリスト: W.クラインラングナー

シーボルト博物館名譽理事長

シーボルト学術協会会長

大澤真澄 東京学芸大学名誉教授

加藤重徳 首都大学東京

牧野標本館客員研究員

司 会: 大井 剛 東京成徳大学教授

第2日 10月11日(火)

第2部 13:00-16:40

『シーボルト事件の新たな知見』

・挨拶

ルブレヒト・フォン・ドラム

日独協会連合会会長、日独産業協会名誉会長

・シーボルト事件研究史概観

沓澤宣賢 東海大学特任教授

洋学史学会会長

・シーボルト事件の世界史的前提

—1820年代の世界と日本—

横山伊徳 東京大学教授

・シーボルト事件発覚の検証と事件後の影響

梶 輝行 横浜薬科大学教授

・愛妻おたきの手紙からみたシーボルト事件

石山禎一 OAGシーボルト・ゼミナール創設者

* ラウンド・テーブル・ディスカッション *

『いわゆるシーボルト事件』

パネリスト: 講演者全員

宮崎克則 西南学院大学教授

司 会: 沓澤宣賢 東海大学特任教授

洋学史学会会長

会場にて受付・入場無料

第3日 10月12日(水)第3部

昼の部15:30-18:00 夜の部18:30-19:30

昼の部:『日独協力の新しい道』

・挨拶

カール・フォン・ウェルテルン

ドイツ連邦共和国大使

・東北大震災後の日独協力

一関市福祉施設再建のためのエコ・エネルギー・システム

オスカー・バルテンシュタイン

・エコ・シティのための大型木造建築と日独協力

杉本洋文 東海大学教授

・サッカー・スクールによる地域振興

阿部 章 御殿場高原 時之栖スポーツセンター長

・国土強靱化によるイノベーションとマーケットの創出

金谷年展 東京工業大学ソリューション研究機構

特任教授

一般社団法人レジリエンスジャパン

推進協議会事務局長

* 夜の部 *

日独ラウンドテーブル・ディスカッション

『日独協力への提言』

パネリスト: カール・フォン・ウェルテルン

ドイツ連邦共和国大使

古屋 圭司 衆議院議員、

初代国土強靱化担当大臣

他

司 会: マークウス・シュールマン

駐日ドイツ商工特別代表

会場: OAGハウス・ドイツ文化会館(港区赤坂7-5-56 地下鉄青山一丁目駅(7分))

主催: 日独シーボルト・シンポジウム実行委員会

共催: 公益社団法人OAG・ドイツ東洋文化研究協会、DAADドイツ学術交流会、公益財団法人 東洋文庫、

ウェルツブルク・シーボルト博物館、ブランデンシュタイン城シーボルト博物館、洋学史学会

協力: 在日ドイツ商工会議所、公益財団法人 日独協会、多摩美術大学美術館、一般社団法人日本美術アカデミー

後援: ドイツ連邦共和国大使館

